

イチゴ炭疽病の雑草からの伝搬リスク

農林水産研究所

ー背景と目的ー

- 他県から炭疽病菌がセイタカアワダチソウ等の雑草からイチゴへ伝搬するとされる高い発病リスクが報告されています。
- 愛媛県におけるイチゴ炭疽病の発生に雑草の存在が、どの程度の伝搬リスクを有するのかを明らかにしました。

ー試験結果ー

- 2023～24年に本病が中～甚発生育苗圃の雑草129葉由来の炭疽病菌で1菌株（①-3）のみイチゴへの病原性を確認（表1）。
- イチゴから分離した炭疽病菌（AN-30）に比べ、雑草由来菌（①-3）の病原性は明らかに低かった（表2）。
- 除草剤散布の枯死雑草からイチゴへの伝搬を確認したが、イチゴからの伝搬より発病程度は明らかに低かった（表3）。

表1 育苗圃の雑草からの分離菌株が持つイチゴへの病原性

菌株名	分離した雑草等	菌の種類※1,2	病原性※3
①-1	セイタカアワダチソウ	<i>C. f.</i>	—
①-2	セイタカアワダチソウ	その他	—
①-3	セイタカアワダチソウ	<i>C. f.</i>	+
②-1	イヌビユ	<i>C. a.</i>	—
②-2	イヌビユ	その他	—
②-3	イヌビユ	<i>C. a.</i>	—
②-4	イヌビユ	その他	—
③-1	イヌビユ	<i>C. f.</i>	—
③-2	イヌビユ	<i>C. f.</i>	—
③-3	イヌビユ	<i>C. s.</i>	—
③-4	ノゲシ	<i>C. f.</i>	—
③-5	セイタカアワダチソウ	<i>C. s.</i>	—
AN-30 (対照)	イチゴ (1991年2月分離)	<i>C. f.</i>	+
水 (対照)	—	—	—

※1 孢子観察とPCRによる菌の種類判別結果

※2 *C. f.* = *C. fructicola*、*C. s.* = *C. siamense*、*C. a.* = *C. aenigma*
いずれも国内で報告のあるイチゴ炭疽病菌の仲間

※3 接種ランナーに+：明瞭な病斑伸長、—：外観健全

表2 雑草、イチゴからの分離菌株を接種したイチゴ株の平均発病指数

供試品種	雑草由来	イチゴ由来	統計判定
	①-3	AN-30	
さちのか	1.5	3.4	*
紅い雲	1.5	3.6	*

イチゴ品種は、各区10株ずつ供試

発病指数は、0～4段階で、接種14日後に調査

* 統計学的な有意差判定で菌株間に発病差あり



表3 雑草、イチゴからの分離菌株を接種し、除草剤処理で枯死させた

セイタカアワダチソウからの孢子伝搬によるイチゴ株の平均発病指数

グルホシネート散布		グリホサート散布		除草剤無散布		イチゴからの伝搬
①-3	AN-30	①-3	AN-30	①-3	AN-30	AN-30
0	0	0.7	0.5	0	0	1.2

愛媛県内のイチゴの育苗圃場において非選択性除草剤の散布により枯死した雑草葉からの伝搬による発病は全く問題はないとの断言はできないが、雑草からのイチゴ苗への伝搬リスクは、明らかに低いことを確認。